

令和4年3月15日

保護者の皆様

令和3年度知立小学校学校評価ー アンケート結果・分析 ーについて

知立市立知立小学校長 橋 本 昭

日頃より本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。令和3年度もコロナ禍のため多くの行事が延期・中止となるなど、学校行事・教育活動が制限される年でした。そのような中で、私たちは子どもたちの健康と安全を第一に、日々の教育活動を進めてまいりました。

こうした活動に対して、皆様にアンケートのご協力いただき、私たちの活動を振り返る機会とさせていただきます。そのアンケート結果がまとまり、分析を行いましたのでお伝えします。この結果をもとに、今後の知立小学校の教育活動に生かしてまいります。ご協力いただき、ありがとうございました。

この学校評価の結果・分析は、アンケート回答の一部を分析したものです。知立小学校ホームページのサイトにて、お答えいただきました全アンケート質問の結果を掲載していますので、ぜひご覧ください。

調査目的：児童生徒がより良い教育活動等を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すための資料とする。

調査時期：令和3年12月～令和4年1月

調査方法：スマートフォンや学習用端末タブレットを活用したアンケート

活用方法：結果について分析し、今後の知立小学校の教育活動に生かす。

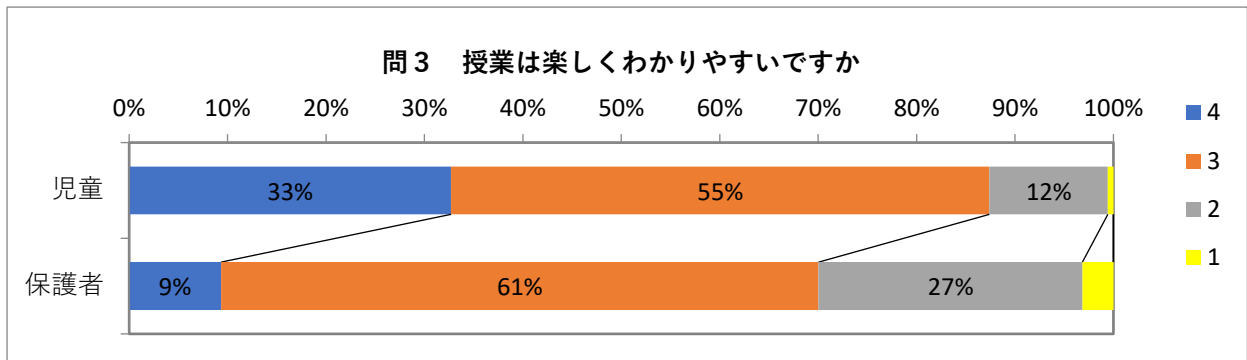
調査対象 回答数・回答率

児童(3～6年生) 98.2%(在籍数 542、有効回答数 532)

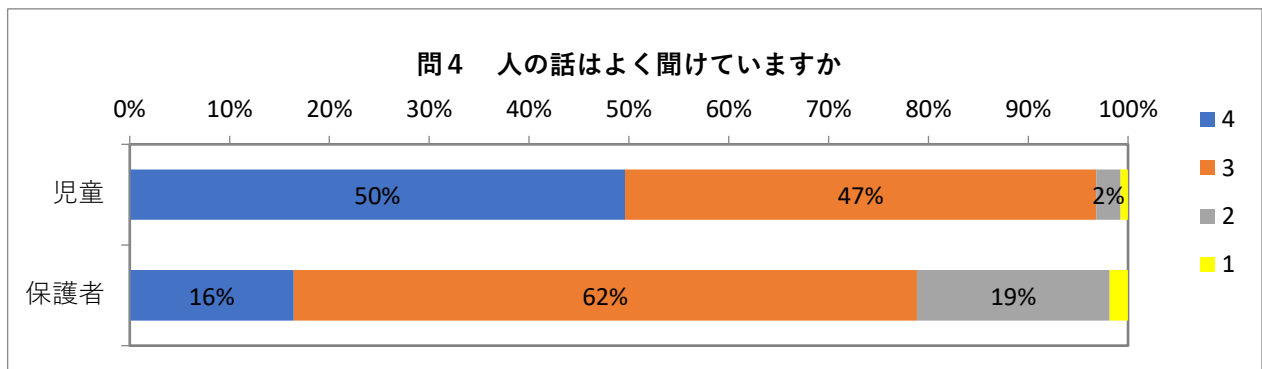
保護者(全員) 回答数 761 (無記名方式 児童数 839 家庭数 643)

I 本校の教育目標 1 「進んで勉強する子」 について

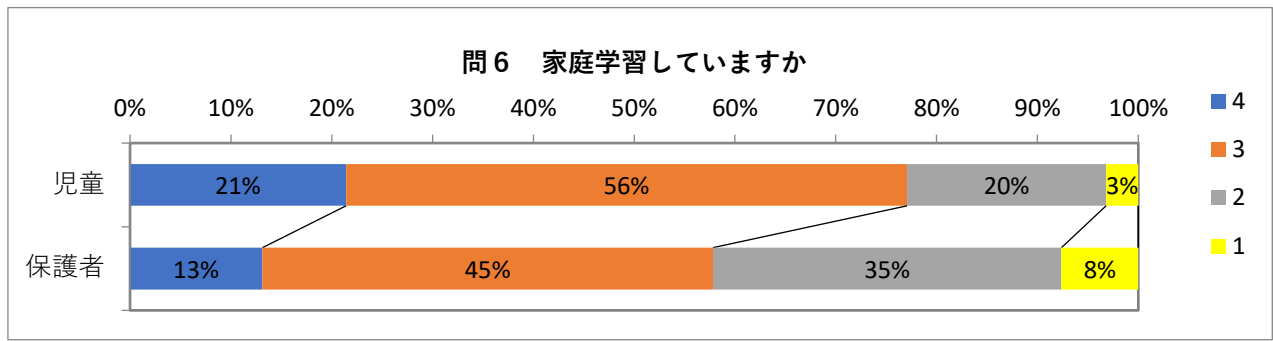
回答 ■ 4 4そう思う ■ 3 ややそう思う ■ 2 あまりそう思わない ■ 1 そう思わない



- 「授業は楽しくわかりやすいか」について、児童（3～6年生 以下同じ）の88%が「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答していて、昨年度の結果79%より9ポイント上昇しています。これは、学習用タブレット端末を活用した授業改善が一因ではないかと分析しています。令和3年4月に全校児童にタブレット端末が貸与されて以来、本校では積極的に授業で活用しています。タブレット端末を活用することで、話し合い活動では発言のやりとりだけでなく、自分の考えや気持ちをタブレット端末を使って全員に配信することができます。それは児童が積極的に授業に参加することにつながり、自分の考えをより深め、共有し合うことができるからこそ、「楽しくわかりやすい」と答えたのではないかと考えます。また、タブレット端末を使って画像や動画を撮影することで、学びの見える化や積み重ねがさらなる学習意欲の向上にもつながっていると考えます。今後も、子どもの学びを深める学習用タブレット端末を活用した授業の在り方を研究していきたいと考えます。
- しかし、本来授業で行うべき音楽の合唱やソプラノリコーダーなど楽器の演奏、家庭科の調理実習、体育の集団で行うサッカーやバスケットボールなどの球技、理科の共同で行う実験などが、コロナ禍で実施するのが困難でした。実感や実体験を伴う学習は、学習への達成感や成就感を生み出します。感染対策を講じた上で、実施する方法を模索していきたいと考えます。



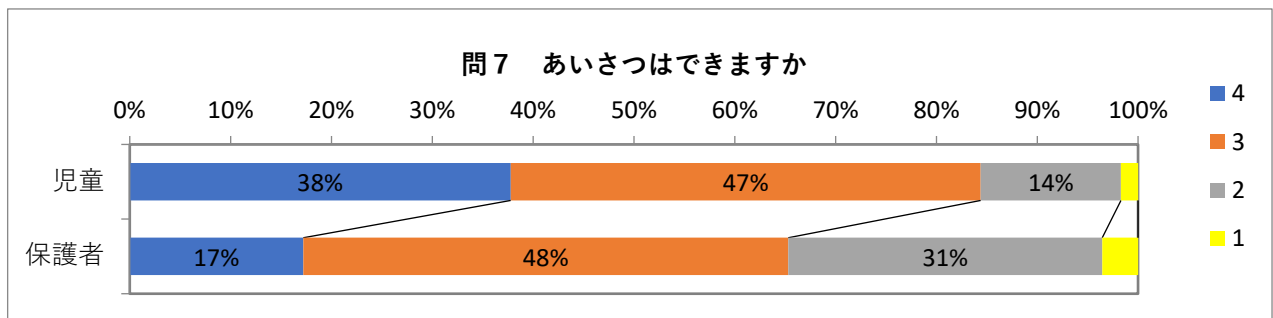
- 「話はよく聞けますか」について、児童のほとんど97%が「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答しています。昨年度より、5ポイント上昇しています。考えや思いを公表できるようにするためには、聞いてもらえる、学級にどんな意見でも受け入れてもらえるという安心感が重要だと考え、本校では継続して「聞く」ことに力を入れて指導をしてきた成果が出てきたように思います。



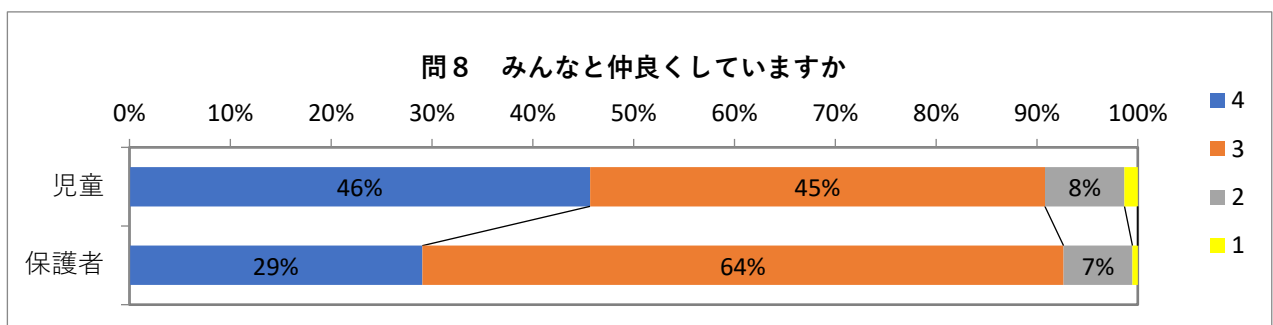
- 「家庭学習していますか」について、児童が「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答している割合が77%に対して、保護者の皆さんがそうとらえている割合は58%であり、19ポイントの差がありました。その差は昨年度の13ポイントより6ポイント増加しています。子どもたちが自分で家庭学習をしっかりやっているつもりであっても、保護者の方から見ると十分ではないようです。家庭学習の重要な役割の1つとして、学力を定着させるための復習もありますが、コロナ禍が続くかもしれないことを踏まえ、今後は自分の学びたいことを自分の力で学び進めていく力を子どもたちに身に付けさせていく必要があると考えます。ぜひ、ご家庭でも一度家庭学習の在り方をお子さんと話し合ってみてください。また、知立市学力向上研究推進委員会が作成した「家庭学習のススメ(平成29年7月改訂)」【インターネットで「知立市 家庭学習のススメ」で検索】があります。参考にしてください。

II 本校の教育目標2 「思いやりのある子」 について

回答 ■ 4 そう思う ■ 3 ややそう思う ■ 2 あまりそう思わない ■ 1 そう思わない



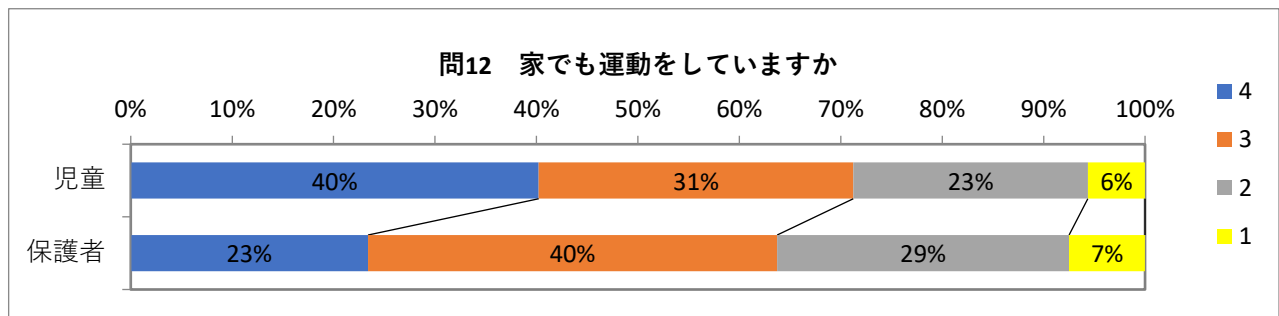
- 「あいさつはできますか」について、児童の85%が「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答していて、昨年度より13ポイント増加しています。子どもたちは毎日元気に挨拶をしています。「おあさご運動」(おはよう・ありがとう・さようなら・ごめんなさい)は本校で長年取り組んできた活動であり、児童会が中心となって自主的に取り組んできた活動でもあります。人と人がつながるために、挨拶はとても大切なものです。全ての子が笑顔で挨拶ができるように、私たち教職員も率先垂範して挨拶を行っていきたいと思います。ご家庭でも子どもたちの挨拶を振り返る機会を設けていただければ幸いです。



○「みんなと仲良くしているか」について、保護者の皆さんが「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答している割合がこの3年間90%程度でほぼ変わらずでしたが、児童の割合は昨年度の82%から91%に回復しました。この割合は、一昨年度（平成31年度）と同程度の割合です。みんなと仲良くすることは、「人の話を聞く」底上げにもつながる項目なので、今後もさらに思いやりの心を学校教育のあらゆる機会に粘り強く育んでいきたいと考えます。

Ⅲ 本校の教育目標3 「力いっぱい運動する子」（体力づくり、外遊びの充実） について

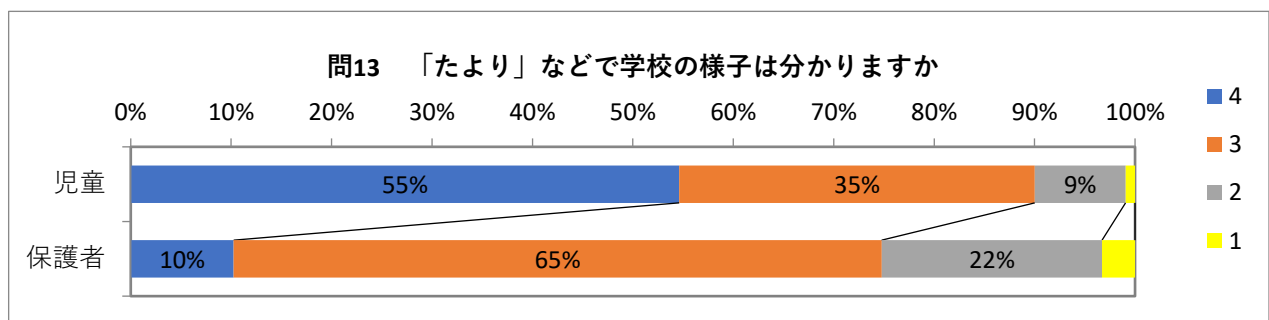
回答 ■ 4そう思う ■ 3ややそう思う ■ 2あまりそう思わない ■ 1そう思わない



●「家庭での運動」について、児童も保護者の皆さんも「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答した割合は、昨年度とほぼ変わらず横ばいの状態である。コロナ禍で不要不急の外出を控えたり、テレビゲームやスマートフォンなどの普及により10年前と子どもの遊び方が変化したりしていることが原因だと考えます。だからこそ、学校での体力づくり、放課での外遊びが一層重要視されてくることがかうかえます。今後も教育目標の1つの柱として、子どもたちの体力向上、生涯にわたって運動に親しむ下地を培っていききたいと考えます。

Ⅳ 家庭・地域との連携、安心・安全について

回答 ■ 4そう思う ■ 3ややそう思う ■ 2あまりそう思わない ■ 1そう思わない



●「学校の様子がわかるか」について、保護者の皆さんから「そう思う」と回答いただいた割合は、全体の10%でした。昨年度より3ポイント減少しました。毎月の学校だよりや学年だよりの発行や学校ホームページによる情報発信を行ってはいますが、コロナ禍による授業参観の中止、運動会や学芸会の延期や簡素化等、学校での子どもたちの様子を知ってもらう機会が減少したのがこの結果につながったかもしれません。学校と家庭が連携して、子どもの成長を見守り続ける必要があります。学校での子どもたちの様子を知ってもらう工夫を図っていききたいと思えます。

子どもはだれもがもっとできるようになりたい、もっと友達と仲良くなりたいと前向きに学校生活を送ろうと願っています。今回のアンケート結果を生かし、本校の学校教育活動を見直し、改善を図っていききたいと考えます。保護者の皆様方のさらなるご理解とご協力をよろしくお願いいたします。